

事業名	スポーツ県やまなし推進事業費	財務コード (事業)	163701
-----	----------------	---------------	--------

細事業名	いきいき山梨ねんりんピック実行委員会事業費補助金
------	--------------------------

担当部課室	教育委員会 部 スポーツ健康課 生涯スポーツ 担当 (内線)	8413
-------	--------------------------------	------

I 事業の概要

実施期間	始期 H5 年度 ~ 終期 年度		
実施主体	補助(いきいき山梨ねんりんピック実行委員会)		
事業の目的	誰(何)を対象に 高齢者を中心とした県民	その対象をどのような状態にして スポーツを通して健康を保持, 増進し, 生きがいが感じられる	結果、何に結びつけるのか 明るく活力に満ちたスポーツの振興
	事業の内容 ※主に23年度 ○事業概要 誰もが健康でいきいきとした生活が送れるよう、高齢者をはじめ子どもから大人までの県民が一堂に会し、スポーツ、趣味、ボランティア、生きがいがづくり活動などによる仲間づくりを通じて社会参加し、同時に老後の暮らしを支える各種の情報を得るために開催する。 ○近年の実績 平成20年 会場:小瀬スポーツ公園他, 種目:11種目, 参加選手:2,593人 平成21年 会場:小瀬スポーツ公園他, 種目:11種目, 参加選手:2,612人 平成22年 会場:小瀬スポーツ公園他, 種目:11種目, 参加選手:2,497人 平成23年 会場:小瀬スポーツ公園他, 種目:11種目, 参加選手:2,643人		
根拠法令等	スポーツ基本法		

II 事業の目標、実施状況等(事業実績及び成果の達成状況)

事業の実施状況と目標の実現度	22年度	23年度		24年度	25年度	事業目標の考え方
	実績値	目標値	実績値	見込値	目標値	
活動指標	種目数	11種目	11種目	11種目	11種目	活動指標 目標設定の考え方 前年度の開催種目数を目標値とした。 データの出典等 予算書, 実績報告
	活動指標達成率 (実績値/目標値)	100.0 %				
成果指標	参加者数	2,497人	2,600人	2,643人	2,700人	成果指標 目標設定の考え方 直近3年間の参加者数の平均値を目標値とした。 データの出典等 実行委員会からの報告書
	成果指標達成率 (実績値/目標値)	101.7 %				
決算額、予算額	1,000	1,000		900	810	成果指標によらない成果 「県民のスポーツに関する意識・活動調査」から、運動・スポーツを「週に1~2日」及び「週に3日以上」実施した成人の割合は年々増加している。 H14:30.9% H20:32.4% H23:38.8%
(千円) うち一財額	1,000	1,000		900	810	
所要時間(直接分)	32 時間	32 時間		32 時間	32 時間	
所要時間(間接分)	時間	時間		時間	時間	
所要時間計	32 時間	32 時間		32 時間	32 時間	
人件費コスト 単位:千円 (@2,021円×所要時間)	65	65		65	65	

III これまでの事業の見直し・改善状況

--

IV 活動量と成果の判断(平成23年度の業績評価)

(1) 事業は予定された活動量を上げているか。(「活動指標の達成率」等から、事業の活動量を判断)		
数値判定 H23年度 活動指標 達成率	活動量に係る 一次評価	活動量に係る一次評価の考え方 ※数値判定と一次評価とが異なる場合等に記入すること
b	b	

a: 予定を超えた活動量がある(120%以上)。 b: 予定どおりの活動量がある(80%以上120%未満)。 c: 予定したほど活動量がない(40%以上80%未満)。 d: 予定した活動量に著しく足りない(40%未満)。

(2) 事業は意図した成果を上げているか。(「成果指標の達成率」、「成果指標によらない成果」から事業の成果を判断)		
数値判定 H23年度 成果指標 達成率	成果に係る 一次評価	成果に係る一次評価の考え方 ※必ず記入すること
b	b	「県民のスポーツに関する意識・活動調査」によると、運動・スポーツを「週1～2日」及び「週3日以上」実施した成人の割合は平成14年度:30.9%、平成20年度:32.4%、平成23年度:38.8%と上昇傾向にあり、スポーツに親しむ機会は増加している。 また、成果指標である参加者数は実行委員会からの報告によると、平成22年度の2,497人に対し、平成23年度は2,643人と増加し、成果指標達成率は101.7%と目標値を超えていることから意図した成果を ほぼ 上げている。 高齢者数の増加に伴い、高齢者を対象としたスポーツに親しむ事業は必要である。

a: 意図した成果を十分に上げている(120%以上)。 b: 意図した成果はほぼ上げている(80%以上120%未満)。 c: 意図した成果は十分ではないが、対象や方法の改善により成果の向上が見込める(40%以上80%未満)。 d: 意図した成果が十分でなく、成果を上げる方法も見あたらない(40%未満)。

V 見直しの必要性(平成25年度に向けた改善等の考え方)

一次評価(担当部評価結果)		
見直しの必要性	説 明	IV以外の判断項目
無		

・「IV以外の判断項目」の欄

○必要性(a.目的の達成 b.新たな課題への対応 c.対象の変化 d.ニーズの変化 e.法律・制度の改正) ○官or民(f.民間等実施) ○官の役割分担(g.市町村等へ移管) ○効率性(h.外部委託 i.経費節減 j.類似事業と統合・連携 k.所要時間の縮減 l.プロセスの改善) m.その他

二次評価(担当部局再評価結果) ※行政評価アドバイザー会議(外部評価)での指摘事項を踏まえた担当部局による再評価		
見直しの必要性	説 明	IV以外の判断項目

・「IV以外の判断項目」の欄は、上記と同様とする。

VI 見直しの方向(平成25年度当初予算等での対応状況)

見直しの方向	具体的な実施計画等
現行どおり	

見直しの方向は、「廃止」「一部廃止」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、V見直しの必要性を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること。なお、見直しがない場合は、「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること。